

→ 国際交流員パトリック・ルムラーの

ドイツを語るパトリック

Vol.1

昔々、ある国にドイツ人が居た



二人は今まで人間に一切触れられたことがないような、広々とした大自然を渡り、丘にたどり着いた。丘に登り、広大な平野を見渡すと、10キロ、20キロ...遠くまで見えても自然以外に何も見当たらなかった。「この平野はドレスデン平野と言うんだ。昔、大きな街があったらしい。今、人が残っているのは、ここから約200キロ離れた北の方にあるベルリンという小さな町だけ...」

これから1000年後に上記の節は小説の中に出てくるかもしれない。

世界で出生率が一番低い先進国の一国ドイツでは、人口がこれから大幅に減るに違いない。地域によっては1.0以下という出生率は、人口が減らないための必要な数字をはるかに下回っている（2008年のドイツ全国の出生率は約1.366）。この19年間で人口の20%近くが減った街も少なくなく、予想によるとこれからの10年にわたってさらに10%減る街もあるということだ。つまり人口20万人の街だと、僅か30年間でその内の6万人が減るのである。

東ドイツと西ドイツを統合した際に、東と西の間では貧富の差が激しく、多くの人が仕事を求め西側へ移り住んでしまった。元東ドイツの地方では人口が低下し、元西ドイツの経済中心地では増加したのだが、少子化のため、これからは経済中心地でも人口が減ってくるだろう。他の先進国でもこうした地方から街への人口流出があるが、ドイツでこの現象は社会主義の急崩壊のため、最も激しかったのだろう。

元東ドイツに人が住まなくなった地方が出る一方、残っているのは寂れた建物や閉鎖された工場などの人類の跡だけだ。予想によるとこの先アパート140万軒が空き、空き物件が更に増加しないためには、一日に200軒を自然に戻さなくてははいけないという計算もある。

こうした中、政府が対策を考えているが、今まであまり効果がなかったようだ。2007年1月1日に導入した両親手当法は、子供が生まれてから12か月の間は、親の一人が仕事を休んでも、月給の67%を政府が支給するというものである。（2007年に仕事を休み両親手当を受けた親の約9%は男性だった。）2007年には生まれた子供の数が増えたが、2008年には再び減ってしまい、更に子供の数と亡くなった人数の間には約17万人の差があり、ドイツの人口は2003年から減り続けている（現在ドイツの人口は約8200万人で、ヨーロッパで一番多い）。仕事を休む親が早く職場に戻れるように、今まで限られていた保育園のキャパシティを増加し、2013年からは2歳の子供も保育園・幼稚園に通う権利も政府は定めた。しかし、それだけでは今の問題を乗り越えられないだろうし、年々増えている海外へ移住するドイツ人と、年々減ってきているドイツへ移住してくる外国人の数も人口減少に影響を与えている。つまり、人口減少には少子化問題だけでなく、政治家の移民者政策も影響を与えている。

もちろん、少子化は悪い影響ばかりではない。人間が住まなくなった建築物を自然に返している地方では、自然が自由に拡大してくる。最近、東ドイツのラウジッツ地方で、大昔絶滅した狼の群れが再び発見された。不動産業界や不動産所有者にとって、土地の値下げは大変だが、買う者にとっては嬉しいだろう。元東ドイツの寂れてきた地方には、建物を改造すると約束するなら無料で物件をくれるということもある。社会主義の時代から残っている、人が住まなくなった高層団地では、ソーラーパーク（太陽発電所の建設）も検討中である。

... 遠くから狼の吠える声が聞こえてきた。「でもその話は後にしよう。もう6時だ。日没まで4時間しかないから、急いでライブツィヒ森にある木こり小屋までたどり着かないと狼に襲われるかも」とパトは慌しく言った。

新国際交流員 パトリックさんの

「びっくり箱」 第1回

～講演会～

- テーマ 「ドイツの今」
- 日時 6月28日(日)
- 時間 午後2時～4時
- 場所 国分寺公民館 第2・第3研修室
- 参加費 無料
- 申し込み 当日現地にて
- 問い合わせ 生活安全課 ☎40-5555
Mail: seikatsu@city.shimotsuke.lg.jp